

みなさんは入学後、学部や大学院は違っていても今の日本と世界が直面している大きな問題をめぐって直積的あるいは間接的に考える機会があるはずです。大きな問題とは何でしょうか。もっとも大きな問題の一つは、世界に共通する格差社会の問題です。先進国も途上国も、社会的な格差の問題に直面しています。なぜ格差は拡大するのか。この問題を解き明かすフランスの経済学者トマ・ピケティの「21世紀の資本」が、世界の主要国でベストセラーになっています。日本でも同様です。このブームは格差社会問題に対する持続的な関心の現われに違いありません。バブル経済崩壊後、四半世紀になろうとしているのに日本経済の長期停滞が続いています。「勝ち組」対「負け組」といった身も蓋もない表現が横行した時期もありました。今も日本社会は二極化が進行中です。格差は是正されなければなりません。二極化ではなく多極化すべきです。大学の二極化は是でしょうか、非でしょうか。ここでは明確に二極化に反対の立場を示したいと思います。さまざまなタイプの大学が相互に尊重し、多様性のなかで協力と競争をすることで日本の高等教育と研究は飛躍的に進歩するようになるに違いありません。学習院大学は、独自のユニークな大学、ほかの大学とは異なる特別な大学になることを目指します。それには皆さんが各学部・大学院での専門知識を深める一方で、学部・大学院の違いを超えて共通する実践的な教養力を身につける必要があります。それにはたとえば海外フィールドワーク研修や留学、キャリア・デザイン科目や英語のインテンシヴコースを履修し、あるいはボランティアやインターンシップに取り組むべきでしょう。特別な大学をめざす学習院大学で学ぶことで、みなさんひとりひとりが特別な人になるのです。大学では自ら課題を設定し自分の頭で考え、自分の言葉で解決策を表現しなければなりません。この目白の杜のキャンパスで、自分の頭で考え、自分の言葉で表現できるようにしましょう。

【平成 27 年度(2015) 学習院大学入学式 学長告辞 学習院大学長 井上寿一】